

## ◆ 「百観音献灯会」に寄せて ◆

村上 圭子

中野区沼袋にある明治寺で毎年7月末に開催される「百観音献灯会」。ここでガムランを演奏するようになって、18年目の夏を迎えた。地元の皆さんたちを中心としたボランティアで準備が進められ、手作りで暖かい雰囲気での催しである。沼袋の商店街を少し入ったところにある静かな佇まいのお寺に一步足を踏み入れると、そこはもう別世界。献灯会の夜は、お寺の境内にある180体の石仏の観音様に千本近くのお灯明が灯され、幻想的な空間ができる。

美しいろうそくの火をバックに、夕暮れの心地よい風、ガムランの音に呼応するかのように鳴き出す鳥や虫の声、どこからともなく人々が集まってくる雰囲気、夜店で楽しむ子供たちの声が聞こえる中でガムランを演奏していると、まるでジャワで演奏しているような錯覚に陥り、時の流れが変わってしまう。

献灯会で演奏するのが一番楽しみというメンバーがほんとに多い。文字通りランバンサリの一年は、献灯会で始まり献灯会で終わるのである。いつの時代も、ランバンサリにとって、献灯会でのガムラン演奏が、ひとつの目標であり区切りでもあった。献灯会でデビューしたメンバーも多いし、どんなに忙しくても献灯会だけは出演するというベテランメンバーもいる。

今年の献灯会も、例年通り行われた。でも、ひとつだけいつもと違うことがあった。献灯会の中心人物である明治寺住職の草野榮應さんの姿がなかったのである。献灯会を目前にした7月12日、50年の生涯を閉じられた。こんなに早くお別れの日が来るとは思いもよらなかった。草野さんにはぎやかなのが好きだったから、いつも通りにぎやかにやりましょう、ということで、ほんとにいつも通りの献灯会だった。あまりにいつもと同じなので、草野さんの姿が見えないのが不思議なくらいだった。草野さんのことを話題にすると悲しくなるので、みんなあえて触れずにいるのがよけい悲しさをつのらせていた。

初めて献灯会で演奏したのは1986年。ランバンサリが大学のガムランクラブを離れ、正式に演奏グループとして結成されて2年目のことだった。メンバーのほとんどが20代。まだまだ駆け出しだった時代から、ランバンサリを長い間応援して下さったのは、他ならぬ住職の草野さんだった。86年以来、ずっと欠かすことなく献灯会でガムラン演奏をさせていただいてきた。ランバンサリは、献灯会で育ててもらったといっても過言ではない。「ランバンサリの活動を応援したいから、ぜひ友の会を作って下さい」と提案して下さったのも草野さんだった。おかげで、今は「ランバンサリ友の会」が設立され、多くの皆さんから応援や励ましをいただきながら活動を続けている。

献灯会が開催されるのは、毎年7月最後の日曜日と決まっている。いつも梅雨明けの時期と重なり、天気予報のチェックが欠かせない。どうしても雨が降りやまなくて、本堂の中で演奏したこともあるが、18年の歴史の中でほとんどの年は野外で演奏することができた。最初の年は、何と演奏の途中で雨が降り始めてしまった。演奏を中断しようかと思ったその時、地元の消防団の皆さんが、すかさずビニールシートを用意して下さり、雨にぬれないようにと、演奏が終わるまでずっと立ったまま、手を掲げてシートを持って下さっていた。懐かしい思い出である。

最初はガムラン演奏だけだったプログラムも、踊りを加えるようになり、やがて特設野外ステージまで用意されるようになった。舞台の設置、音響、照明、全て地元の皆さんのご厚意により、年々充実したものとなり、毎年恒例となっていく。「ぜひ一度ジャワのワヤン(影絵人形芝居)をやりましょう」「私もそのうち楽器に入って一緒に演奏してみたいなあ」などと、毎年打ち上げの時に出る草野さんの献灯会の将来への夢話は尽きなかった。

献灯会で、毎年最初に演奏している「コド・ゴレ」、カエルが鳴くというタイトルの曲がある。沼袋の商店街のシンボルマークであるカエルにちなんで、毎回演奏するようになった。ジャワでは儀式の時などに演奏される単調な繰り返しの曲だが、独特の雰囲気を持っている。かねてから草野さんが、ぜひこの曲のゴングをたたいてみたいとおっしゃっていた。今年の演奏の最後に、私たちは草野さんを偲んで「コド・ゴレ」を演奏した。こんなに悲しく聞こえた「コド・ゴレ」は初めてだった。でも、私たちにしてはいい出来の演奏だった。

ずっと後ろのベンチで聞いていたメンバーの子供が、何かを感じたのか、最後の「コド・ゴレ」の時だけどうしてもステージに上がりたかといって木製のカエルの楽器を持って一緒に演奏した。カエルの背中を木の棒でござごすりながら一生懸命演奏している5歳の彼の姿が、とても印象的だった。

何歳までガムランを続けるだろうか？ という話を私たちは時々することがある。先日の献灯会に来て下さったお客さんの中に、「ここまできたら年寄りになってもずっと続けるしかないわね」と言われた方がいた。オランダには、煙草をくわえながらかっこよくガムランをひいているおばあちゃん達のグループがあるらしい。私たちもほんとにそうになったら本望かもしれないが……

ガムラン演奏の現役を引退したら、浴衣を着て献灯会に遊びに行くのが私の老後の夢である。そんな日が来るまで、ガムランを続ける限りは、後を継がれることになった長男の草野榮雅さんと一緒に、新しい献灯会の思い出をみんなで作っていきたくと思う。



## ランバンサリ&多聞天 今後の活動予定

### 十六夜コンサート 其の弐

～小島夕季ジャワ舞踊のタベ～

日時：9月15日(月/祝) 開演 17:00 (開場 16:30) 雨天決行  
会場：上野公園水上音楽堂・野外ステージ(屋根あり)  
(JR 上野駅下車、徒歩5分)

舞踊：小島夕季

演奏：ガムラングループ・ランバンサリ

入場料：前売 3,000円/ペア 5,000円

当日 3,500円/ペア 6,000円

70歳以上 1,000円

小・中学生 1,000円

6歳未満 無料

問い合わせ・予約：melati@d6.dion.ne.jp

ジャワではよく野外(あるいは屋根はあっても壁のないセミオープンの空間)で、大人も子供も一緒になって影絵芝居や舞踊を楽しみます。みなさまにもそんな時間を過ごしていただきたくて、今年も「十六夜コンサート」をひらきます。飲んだり、食べたり、おしゃべりしたり・・・思い思いにお楽しみいただけたらうれしいです。(小島夕季)

ジャワ舞踊家・小島夕季さんの自主公演「十六夜コンサート」が今年も開催されます。上野公園の不忍池近くにある水上音楽堂で初秋の宵をジャワ舞踊とガムランでお楽しみ下さい。プログラムが進むにつれて、だんだん日が暮れてきて、涼しい風が吹きはじめ、ガムランの音に虫の声が加わり、空には月が・・・というロケーションは、昨年も大好評でした。

今回は、小島夕季さんが「チャンプルサリ」「ラントヨ」「ガンビョン・パレアノム」「ゴレ・ランバンサリ」と、4つの作品を踊ります。どうぞお楽しみに。

### 第19回満月の夜の会

#### 川田監督とゆかいな仲間たち

～川田直樹&高岡洋介&田中流～

日時：8月10日(日) 開演 15:00 (開場 14:15)  
(14:30～1 作目「ビー玉姫とトゲ男」上映)

会場：ランバンサリ・スタジオ

会費：500円(友の会正会員：無料) ジャワティー付

定員：30名(要予約)

「満月の夜の会」初の映画上映会です。自主制作映画を意欲的に撮り続けている川田直樹監督の新作「風の歌声」の発表をメインに、前作2作品を上映いたします。3作とも30分程度の短編作品ですが、ほのぼのとした心あたたまるストーリーです。

また、監督と撮影関係者たちによる対談や映画出演者の一人でもある高岡洋介氏の詩の朗読&ライブペインティング、田中流氏による写真展など、盛り沢山の内容となっています。お楽しみに。

川田直樹(映像作家)

1967年生まれ。横浜市出身。90年(株)大船撮影所入社。美術装飾スタッフとして「男はつらいよ」「釣りバカ日誌」「学校」他、多数の松竹映画に参加。その一方、自主制作映像に取り組み、99年高円寺ショウボートにて初監督作品「ビー玉姫とトゲ男」の上映ライブイベントをプロデュース。2000年大船撮影所閉鎖後、松竹株式会社に入社。01年監督作品2本目となる「天使がくれた日」を完成させる。同年、新大久保商店街振興組合主催アールズコートで映画祭をプロデュース。自らの作品も上映される。02年「天使がくれた日」が和歌山自主映画上映会に出品される。03年春、新作「風の歌声」が完成。今回のイベントが初公開となる。

お申し込み：ランバンサリ事業部「多聞天」

Tel: 03-5425-6137 (月曜日・土曜日/17時～21時)

Fax: 03-5425-6158 (随時受付)

E-mail: bima@jp-t.ne.jp (担当：西村)

(お名前とご連絡先を明記の上、お申し込み下さい)

### 第14回アジア文化講座ジャワ舞踊レクチャーシリーズ part 2

#### 「日常の動作を取り入れた踊り」

日時：9月27日(土) 18:00 (開場 17:30)

会場：ランバンサリ・スタジオ

講師：飯島かほる

会費：1,000円(友の会正会員500円) ジャワティー付

協力：サンガール・パムンカス

王宮から遠く離れたジャワの農村部で生まれ、都市で開花した生活感あふれる踊りが今回のテーマです。「ガンビョン」や「ボンダン」は現在でも非常に人気の高い演目ですが、その起源は村の儀式にたどることが出来ます。一般庶民の生活に根付いたこれらの踊りには、日常の動作も多く取り入れられており、庶民の生活を垣間見ることが出来ます。また、これらの踊りを基礎にして多くの新しい舞踊が創作されてきました。今回は S. ガリマン(S. Ngiliman)氏作の「ボンダン・マルディシウィ」と「タリ・パティック」の2つを取り上げ、村から発展した踊りについて、また新しい舞踊の創作過程についてお話します。(飯島かほる)

### パティック講座

マイペースで作品作りに取り組めるのが特徴です。ハンカチなどの身近なものから、カインパンジャンという一枚布まで、幅広くご指導します。エスニックの薫りあふれる小物からウェアにインテリアに生活の彩りにお楽しみください。

日時：8月24日(日) 14:00～17:00

9月28日(日) 14:00～17:00

会場：ランバンサリ・スタジオ

講師：中右絢子(なかう あやこ)

用意するもの：エプロン、4Bの鉛筆、洗濯ばさみ4つ。その他の材料、道具等は先生が準備して下さいます。

参加費：3,600円(一般)

3,100円(友の会正会員)

\*初回はハンカチ布代が別途必要となります。

### 日曜ガムラン

どなたでも楽しめるガムラン練習。初心者大歓迎。1回だけの参加もOKです。継続して参加したい人には、さらにオススメです。

日時：8月17日(日) 16:00～18:00

9月7日(日) 16:00～18:00

9月21日(日) 16:00～18:00

会場：ランバンサリ・スタジオ

参加費：2,000円

#### ■お申し込み・お問い合わせ：ランバンサリ事務局■

Tel & Fax: 03-5300-6361 (木村)

E-mail: o-moon@zd5.so-net.ne.jp

講座のお申し込み・公演の予約ご希望の方は、住所、氏名、講座・公演名を明記の上、ハガキ、電話、ファクス、Eメールのいずれかで、ご連絡下さい。

#### ■ランバンサリ通信 2003年 No.5■

発行：ランバンサリ通信編集局

2003年8月5日発行